

鋼橋技術研究会  
鋼橋の景観設計研究部会  
報 告 書

平成8年5月

ま え が き

## § 1. まえがき

当研究部会は、部会長篠原修教授のもとで平成3年5月に発足し、約4年間の活動を行った。

“鋼の持味をいかした景観美に優れた橋梁とは？”を命題に、鋼橋の設計、製作、施工とデザインの関わりについて研究を行ってきた。

後述するように、4つのワーキンググループを中心に進められたが、各年度ごとに見学会を実施し、部会員相互の懇親を深めることによって、本音の議論のできる活動を目指してきた。

平成4年7月から平成5年4月にかけて各グループごとの活動報告を基に会員向けに4回のミニシンポジウムを開催した。又、平成6年9月には、土木学会年次講演会にて各グループの活動内容を中心に4編の発表を行った。

平成5年度には、平成4年9月に行ったヨーロッパ著名デザイナーの橋梁見学会の報告書として“Visual Structure”の自主出版を行った。その刊行記念シンポジウム（一般向け）を同年7月に行い、300名近い参加を得ることができた。

平成6年度には、部会の研究成果の集大成として“橋の景観デザインを考える”（技報堂出版）を出版し、これに伴うシンポジウムを東京、大阪で開催した。

以上のように、当部会では、活動を外部に開いて広く参加をつのり、その結果多くの方々と共に勉強し、我々自身の研究内容のさらなるグレードアップをはかってきたつもりである。

より景観にすぐれた橋梁へのニーズが今後益々強まることは必至であり、当部会の研究成果がわずかでも、これに寄与できれば幸いである。